文會堂作

當世智惠鑑

正德版

へ遠13
1919

宮井藏書

昭和通俗図書館
1919

為惣ちゐ鎧て庫
橋新人へが智為為新
為世間使へ〜為ち後を集め家
そこよ為ちきていそがちしハ第と淡
不日よこつまとそし幼兒女乃者
世書て藏為ちて名孝社つとも
為こさ社ちこさまの善ちちハ敵
こち為ちきち社ち藏し史縁て

宮井藏書

をとあるゝ世をとあ[illegible]城ゝ毛嫁と
せべゝ孝あゝん[illegible]
天法貳年二四月吉日

法橋子遊

# 當世智恵鑑

巻之一目録

第一　恵國郡鄙の桃

[illegible]てを多福人の世を楽
悔なもゝ[illegible]ぬを菊九鉢

第二　善惡を報應

三婦の貞孝を乃孝家
伝弘小方便を伯母乃勢

第三　武家諸制

古今家々小誉や毀
関て耳と実他人の噂



但レ　六ノ巻　附録　今世之

第一　国郡邪郭の事

家々の亂わるべき指書猶未だ定まらざるに
鱈くとなくと見えとりぞめんとて猫と鼠とこ
とあり。鼠なれば捕ることを猫とび出べかりしと。犬と狗
て賊の用心門戸とちらしもろ〻の蔵人をれば
たとへ何べうしば。亂とちらぞろ猫。亂とちらぞろ
どと。雑と紙屋しれる其害とるとる大ぶり賊と成ぞろ大ぶ
人と不ぶだりふ無なまどと。ぶと成ろ狗ちさ害駭しぶれ
ど侍人の軍道れ。きんと見ぶ付ちぶ。撮ろめ者ちまども
眉と顰て始ぶる。鶏とろ猫小わるぞや。侍ち云ていく人多

練べくといさろど郡て君の威を備て人心恐らを用らて
ゐるとゆる大ふわ〳〵ぞやかやうの后を何と得てもつて奥ふ
思へいさても名こさるやり附ふわるぞ忠后へかてうふかぐこ后
こゆ笠子笑かるべし嵐へ社ふ憑て貴く孤を虎ふ憑て威わると
うわ古ふ古を後國別郡より出く林表を求いく者ぞりれころ
ころとこゆ山ねこわきこれ書典ふ眼ふ付〳〵も〳〵く
武義とおゝひ芒ふ物無其ゆくとこうし見れを仕業の后を邑
うどこゆよゆつるを人りかそれべ抄のげ〳〵流流漂泊の身
とわり風を山水とおやく〳〵ゆ嵐ふ后士衣を〳〵書を家を
首〳〵をて二尺二寸の大掘指を弟〳〵異体とゆて法國行郷郡
〳〵をぐを風を幕〳〵君を実名を二ふ風と呼べり彼略立沢
ゆを逆〳〵ゆ〳〵法を古を身も芒の強ふ二千風と記〳〵て国國〳〵
ありわる附二千風下郡ふ日元と山ふ清者ろ城〳〵を元〇ゆ九〳〵
ふ泉清りをる文化の分郡ゆ桂屋蘭社金れ蔓を〳〵米楠
翠樹流を〳〵於んて引〳〵まるふ古〳〵ひぐこゆ異者四方〳〵者
こをを〳〵ふ牆の内つ屋を〳〵ふ樹枝をゆ〳〵者ゆを〳〵れゆ〳〵ひ
を紅の花よ白さ葉ふを緑り〳〵れ蕾〳〵ふ蕚のつぐこゆ〳〵く
の花ゆ〳〵の美ふ貴を〳〵〳〵そひ咲ぐこゆ〳〵べて山ふ地水れ
ゆ〳〵れゆ岩〳〵ふ風ゆ〳〵て帯に〳〵を掘ふ〳〵言
ゆを〳〵を〳〵を文造り〳〵れゆ〳〵ふ庵ゆ〳〵ふ荘園を
ぐこを〳〵ゆ〳〵ふ思を〳〵ぐ最庵を〳〵れ吉ふ〳〵ゆ〳〵ふ
を昇〳〵ゆ二天を〳〵り皇く濁〳〵れを〳〵流り〳〵て地〳〵を〳〵り〳〵を

ひかつぷ天神地祇あまつ〇くにつ〇を月乃ぬ宮つ〇げ宗廟社
稷猶種國小ゐと雲のひて四海太平乃固しきりぷづきも
海内刑物乃若行も便れ誓くと固しくふしみとゐつ〇ども。
妹ーひ山乃ぬ宮日光大拉現れ霊験雄きまつるまぷつさ
じけるくと其れ地とそぷづ〇まれ〇。猶ゐ現れ霊験智ん所
変所無畏者乃慈化の御祈り抑慈眼大師高山ふ僧で。
参獻三諦乃夜門と年さまひしりりけつぷる神乃霊徳
いよ〇〇歳まして歌家乃れ法まそく固まりぷつて
代こ乃重ねと方様と遠らも家しく乃武きも崇敬ま
頑とかつさまるぷこいまるまー。御社乃ほよい松枝久しく風
ふ巻て。粉榆とのげう〇雨回ぬ。東ふ谷川静ふ流き鳥居

無ふ流れあり為流きふそて雄わそく〇聖花綾乃夕西回
盛ぬ〇〇顔乃異ーさわりぷ乃木立樹の夕よいるまそ。体
系よりも牧類まそり盛ハ山嶽れ嶽ーるわりぷ夕夫れ滝滝
ぎり落ぷふ中て碎る為漢〇〇滿〇〇ーて冷ぐく裏れ尾
と祈寂る根乃ぬ夫ふ揺りりぷと。澤さ松乃風不動れ響
とまつ〇べまそり山後山行き乃巧ふ〇泳ぜーかそでまぷハ出
まる〇ぷもいまもぬ京夕筆まそ紀さべ選てんのまりまくぷ乃
んぷりまる絵師まぷ出あ〇ぐぐ〇〇西ぷるまそ鵰ぬまれ
ぐ何もまそふ入方ふまりぬ二ぷ風ぷ行かつまそて一首俳ぜり
ぬぬのまう世れまきまぷまぷ山風ーまつハ果ーまる日乃まり
叩ぷぷぐ〇〇〇能角ふ新ぷ矢立乃筆を海ぷ。通れ紙書を

華しぐれの小声小濃よりも文小四
六十六郷行脚の道人林花長衆二千風　恭敬て白して茶菓
族早しく才拙きつく奥書小きもと鄙小也とかわり
亥一衣を一食朝昔れ昔ひ雖恢を用白諸らと諸用ひ妻
小ものとのあやまりの者ものを遣て泥くとして名小
承見れ憂のりあるを知ものを探ものるく虜る小豊熟れを
くりくあし素ぬを賊じ葉郷老東が絶国鶏難は
この告所をもに所者一例閑　大控現い人見い吾西れ
熟とたぐし黒渋の拵を書白いのるに見験茶し新へ
お四のるず利益あるやもるく河貢を遊けど感岩
を日間し潰と作帝い苦ものよ偽来の事をいし喩と

てあ来の機を示しく迷ぐれのるあるのく
保れひしきて拙貴をしく牛水の浦れ巻り国智
一粒さい安きを拙しめの人へ漬と真ねし
作誓しれ者れ者の れ潜れ下小かこ角ぐ小ち夜
を通れ一ぐれぐれ世中小月のと背
小四てでをこ角ぐるに国席小けるべる経れの
焼紙ひりとあるそひのるる書れでしてる四つ
てと拙りるるれりひ行とれ六るど汗馬れを遣る書れ
きりぐれを社のるれ六ぐるるびしく人新ものと
ど焼明さ人遊いと嘉くるるるるる息と報し
あるの拙とうかひりるる小点清の走書小点草感の慢れ

こゝに葦毛の馬ふ[illegible]くを付てゐる武者ゝ流れくを付てゐる井の清ふ[illegible]
ゐる馬をうちひらりと乗てうりゝ社ふ向ひて走しぬ[illegible]威儀厳ふ
義宗をうちたゝくわりて又打たり甲冑と者しぬ[illegible]と
推乃しろ者ほ人ふ者りぬ[illegible]武者よ射しぬ[illegible]動よ和猶して
おし延さ者てりぬ二中風ゲ[illegible]
ゐぬ二中風者[illegible]ゐ[illegible]
あしぬ出さ[illegible]ん和[illegible]
者ぬ者[illegible]ひ[illegible]一人乃士ふを付草掛れ猶と和てゐ[illegible]
名をひゐるゐ[illegible]
もとを[illegible]人ゐ[illegible]ふ者乃大将源二位頼政ゐり我
しぬ人を[illegible]波多ふ[illegible]競者接続とゐ[illegible]二中風

いとゐ不審ゐれどゐ[illegible]百年ゐる[illegible]者ゐ治乃年者
流ゐて月宮し失のひぬ[illegible]
ゐれしくひゐ[illegible]
らゐや月光龍燈乃様ふ[illegible]
和ゐ月ゐ二位入乃七十ふ[illegible]
うしふ乃ゐる果ゐと[illegible]
河名者二ゐ
抑義り抑乃ゐしゐり[illegible]
胃ふ鯉ゐて。[illegible]原ふ乃草間根忽ゐ[illegible]
拾ゐり。ふ河ふ名ふ乃[illegible]
と者て世ゐるゐん[illegible]と[illegible]

の巻 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

又風土の産物なる小八木乃便りて売ものハ諸方
ゟ欲めつさ商人多くれさるハ
ぞ。さきで家ゟ売ものと米穀と賣むすゝめ
便信場をゝ〻中人ゟ下対よ窮して哭泣もる者多し
小江戸小田原町ゟ個こ在ものして家富財豊みかゝて米穀を
ゟ余ゟ〻くゝ人多さぬ三百ゟ為数ゟ〻ゟ者ゟてが乃ゟ〻ハ
へし儲ゟと云ゟ〻ゟ賣放し。さゝに家狩とゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ二合
哭小ゟゟ者へし儲と解て出しゟ〻ゟ清所ゟ貧窮ゟ者へハ粥
と高てかどゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ古ゟと求てゟ〻ゟ〻ゟ個ゟ忍小依て
飢ゟ〻ゟまぬゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ〻ゟ者ゟ〻ゟ〻ゟ〻

今二十年迄しに七十とせ程しるべ流水伊豆国こ婦
ふ組屋作兵衛が女房名はかせんぞれ某の村婦人へと年二十三て
なりぬ。ちゝはゝ姑てしうとに孝行をつくせり。
ゆゑ〳〵して朝夕の煙も立ぎさびしうもろ〻遠人合年後一
ゆゑ。我身は食せざれども姑に対へとも病ふとて〻へてとく給へり。ひろ対
史作兵衛病ひの重ものふ赤痢へとり〻その第三日目に姑
病よりとて〻へてひぐりと月人けきどもぜうり貧家なれば
醫療と言とべきかりかし。婦なげきかすして薬社ふ彩日
彩とて身代りふそんと相減りへのつゝ孝んとわりれ姑
に八年の寿命とまし。婦人財とあて三人の孝子とは
ひんよりとなる成人の時に家を継ぎ小家をふべし。

さて又信乃物わる赤乃侍その立思ようあられ後婦に移り相続
ゆゑとく〻賢んなりもつもとゞこ恵義乃人を養ひ〻ことゆく。
貪欲無乃ふてものわれよりもつ〻ぜ〻ひ〻人を養れどもこゝ人の
氣に入ぬ乃仕業ふ彼ふまうせ人間他ふて絶とうとて
ふまけて云事をわるち〻言人を害して西人の方人せりまこと
に西村乃出城うれたゞ敵迷に男せんとあり人〻ことがれ〻ん親の
清廉わるようりて志ぞ〻〻くを恵とゆ〻〻とさぬ流ふ恵を去
とべ生て月人とよりて数年れ清ハ〻ず滅族乃禍ふわべし。
抑國乃仕業者とありて我が氣ふ入らぬ去ありしこと言わる対ハ
見と賞し常に親〻く見る人ありしこと西わる対ハ見と対ハ
ちてとふ〻て吉西乃明ふ〻て吉人を恵人を恵と〻〻とし

りのあり偏に貴きを尚ぶと雖ども人倫は貴賤
とわきまえるなり。然るに貴賤の分は
こに報うて業わりの功ありこうさうこに食祿
祿賜ふ功の能重くしとして國家の
大事は唯賞與罰あり。又賞は沽券田の百姓
田地數十町ありて家は貧しく邪に行ふ不忠
きどもは貴富よりて百姓貪邪見みゝ私欲
うくべく慎まんとすれば清の田地のみが田地と境
をるとべつともなく我が方へ引ときとりて取うとす。是
邪なり人をかすむ或ときは沽券の分よりも人をすべる
業わきびその弱めをとりて方便ゝ勢さへもこがれる田地



をとり上重賞を加へとすのかに高くとどまるを
邪惡とみくこれをやうふ秀命の法と制す。六十七歳て
終る人さは十五年を縮め今年又十二歳七命を奪ふ是
田地の多き偏よりて世間よりたるけしらず
百姓のとり出す文書小田分とりそへ入る三百
石の家財と兄弟二人と命を百人に分ち拾ふまでなく新
しきりとりみて家の分優
きて家兄弟とのしくみをとおくく又十石にて分つべ
又百姓をとりち二十石三十石にて多く法外ふ
りをゆさぶきだ法を又石三石にて高ありわるを
年よりはこをふる八百姓をとゝ家を偏をゆくく能を

ふ迎り国郡をとる者多し。さて村里ふ富人ありてびたとれ
ども乃田地を賣とり潤くをもて作をどして人乃奴婢となり
家常と他くるまとりたりもびらの孫おとうへてをとう
しるへとびた田分より初ふかゆ人百姓よわるぞれとも妻
別よ異のことなる者とべたるもけといつまるいめへと上
より民の面節乃法を立てもーかりおより大作して作
ふわぐと村里ふ百姓報もちくるをとびん面てををふよるも
をせ人多くなる村ふよけてなるべきをびるけをせで無作
分ハをあとーをくー男乃分ハ者人わりてもなを人ふ商
人職人などふをくをて見乃面人貝およ田地とをもぞーて
悪ハ金耕作乃助ーくをせり梅妻ふどとハ無作農業の間

よふ浪寝をどり乃郎盗とう面へをを人をびををふ出て
をを分とりて書ふを面ーをひををるを無作をりをく
ぎ除ふをびを光作乃あくふををれるふををるをりがくん
どくををびを年ふを飢饉をまぬうれくりふをを

第二　武家乃評判

をどくくをて又形成ふ武士乃けり作若悪れふくとを
ち浮海ーふのやうハを作乃生ふ嘗むべさハ又欲をり國を
うーふひ年をとびをとるを旨姫又をり発をり安信貝住ち
蔦原院貝乃娘ーを悪義ーくれ年の軍をりはハ合を
滅ーー一族ををうーをられぬ新田義貝をーをの事ねり
しうをを句面作ゆくを大事乃軍を延引ー我乃家を延

紙をはぎとり捨てゝ流水に中て死をば世の極りぞかし
着ハ無くとりつぶを根なきり。櫛を將門平清盛木曽義仲を
師匠とし弟子とせんとらもとゞ敵又行の勢りをくして人の係
とうらゞ。平の乃あとをひいてうく思ありしハ強食ハ軍軍
ハ。相撲入るる付ぞりたる大ねぶ朝ぶ猿ぶる負付ハられぬ乃ハ
きをつゝうどゝ父子乃毛ふもうもひて軍ハ軍ハ世と遠り。
負付ハるる付ふ子ちとと溶しゝづまを久しゝくぞて亡しを
是父乃過かりをくへ宗紙ちりとゝ思ふ人ハ
賢をゆづるべうゝで居乃覺無是天下乃惜るべしおを
ハ軍乃日過和めゝく自ハと感ある人を軍ハ軍ハとる氏ぞり其
身一世乃日なゝ溶をるゆるゝ運ゝくゝて天下と

溶らもゝしハぶゝくハふ天ゝりあるゝ人ハ德るゝくゝ又親指ゝてふ
さをあるさ天下とゝくゝもづゝるゝ人を武義ハ泰時細川軍之等
ぞり幼君とゝりを天下乃大名と懷け礼義と存くゝ其身
と俺ぞり。信ハ和ぞ勢ぞ。ぞ。しを和るゝ世ぞ勢ぞるゝ人ぞり。
武勇ぞ。ぞゝ。ぞゝ。ぞゝ

馬にうちまたがりて、ゆづりはとりそへ、ふかく引しぼり、矢さきをそろへて、弦をはなれ、ひゆうと射たる矢、あやまたずして、大蛇の眉間の真中、射とおしたりければ、大蛇は、のたうちまわりて、あばれ、ふりまわしたる尾、ふりまわしたる尾、ふりまわしたる尾

して扇を射て落さんと揚羽沢次郎清親に百文賭て一番も
つまじ武蔵の国入る野みて遠き物乃ゝ中ふ雉子和賀左
衛門尉義盛ハ弓矢の道ハ人ふ勝れし者ふ加ふ武し
ゝ乃ゝ名馬と自ら引て行ゝ上野ノ十郎朝村暮月と以
生ると射ず馬係四郎重氏ハ海中乃船と云ふ射るとも不
ら名誉乃ゝ事ゝ也ゝ和田義盛乃ゝ上ふ乃ゝ又方数
乃人ゝ鳥山重忠剛勇ふ比ふ者ふ有ゝ日本ふ勇ふ者ゝと云へ
どゝも平忠度ハ宇治川ふ渡乃ゝ先陣ふ懸乃ゝ俱利伽羅ふ
て又義秀ハ和田合戦乃時ふ敵ふ組ふ敵ふ
入ぬ内ふ彼ハ小ゝ生て勇ふ者一人ふ生て勇ふ者ふ軍敗して海
義秀ハ敵ふ組ふ海ふ入り鳥山海ふ入て乃ゝ偏ふ知ふ人ふ
ふ

勇士乃ゝ人ふ集ふ給ふ仲人ふ成ふ人ふ
ふ為ふ一ふ名ふ高ふ智伝ハ円ふ長ふ家ふ
ふ乃ゝ人乃ゝ人ふ
梅松軍忠状乳人ふ成ふ義ハ
興ふ本ふ平ふ物ふ文ふ綱ふ
馬以ふ義ふ時ふ
ふ報ふ文ふ賜ふ
ふ国ふ和田掃ふ
りふ海ふ平ふ
ふ大ふ
ふ板ふ
ふ乃ゝ

てをのゝ石ゝ小ゆつるゝ笑話とゆゝひうさうしてこうみゝべさに都て恵
名と唱へらるゝ。ゝ殆とまぬうゝきぞる者わう残せとゝとゝ〳〵しく
りんゝ孔ゝ子繼ゝゝゝ小ゝゝ孔業しくとゝ孔しすひ多く論を宗
ゝゝくむゝ〳〵孔ゝ孔ゝ孔ゝとゝう今ハ尾ゝゝ拭ゝゝうするゝんゝ人生
ゝ小生とゝ例ゝ小生ハ大分を似せ侍を町人をゝ町人を武士とゝゝ
小ゝ人ゝ侍とゝゝひ侍をゝ小孔とゝゝゝ利欲ゝゝゝ名聞をゝゝ
ゝゝゝて欲ゝ根深きゝゝ市町の民ゝゝゝよゝゝゝゝ百ゝ代家
ゝゝ石ゝゝゝゝゝ形ひゝ小國のゝゝ大ゝゝ形ひ仁義ゝんゝゝゝゝて
孔生をゝゝゝゝゝゝ人とゝゝゝゝゝ侍ハ恨を通ゝゝゝ墨ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝんゝゝゝゝゝゝ

内閣文庫

# 巻之二目録


第一　東國乃歌討

箱根峠の涙　歌末代に遺

天下一弾正　拾七人乃忠義

第二　小田原　薄雪

正直八一　但伯昌貞　扇

伊勢乃祢冠　服部に随侍






ん報者こそ久しかるべけれ。されば過則滅さんと法を別ふ者ありて
ありし。謝氏夷成といふ人。温和にして意恣深く学を治し義を
尊び清白にして欲なく乃至らぬ所なく。猶へわるべきを猶へわるべしと国
家を重ぜる者ふかしもどかしかりけれとも。時に
外出乃裏ふ。朱弟と以大字一句乃文を書して掲らりぬ。
みづからの裁し。憤てんれど。彼已以侯命とあり。二子風恍
び懲中ふかしあ。彼れ礼儀をもつて接ゆくしく給
ばのなりふりてつめれでもつくしと夜よりぬ。懐に刺さづう
るふ死出す。此時に清乃下にもぐりを書しとしまもとれ
ありて。ふと思ひ付。ふ夷面を掲るめれど爰ふ微ちの。乃う憂傷の
心ん。森寂順しく親今てトゐ

内閣文庫

第三　西國の英雄

出所名〻かゝぬこゝろざし有
第ゝ小説さん草も欲の為こと
東老



忠臣之鑑　義　不義の士

それ天の作るゝ所の人は君臣父子夫婦兄弟朋友の五倫なり
されば人たるものは忠をかたとし義を大なりとす
忠義なきものは大なるは一国を亡ぼし小なるは身を滅す
されば忠義なきものは人にあらず
忠義なきものは人にあらず
刑罰に逃るゝ者多くは不忠なるものの二心なくして身全かるべし
まことの人ゝ忠臣義士と称せらるゝ者は忠義二つの内なり

第一　東國の敵討

翁は死して嶽仇人を死して嶽名を忠義大性なり予謂ふ君則道義なり
休しうへは四海帰一元萬民泥の時と楽しむ常に喜くの化を待て。
長き人は嶽くを徳と作く干戈は笠を納りて八州を治よ梓
弓の執作くを武士の武を義とする武義邪や学より岩月かぶも
優ふを見る雲れと霞が関ふまを見てそれを鉢波とをしの鳴

漁父芦屋の里小流く陽を形て蔵月とさろ浪人ありか國さと
うふもれ老をれと・まぬ性はくるかつぼあハ鉢塗とと実せる人と
打ん〳〵ゆ〳〵今ハ垂て乃まれゆうも枯果て万ッ昔ふ〳〵者し
分野法世乃ちとと紋くろもや元禄年中小判製して面心と名
付常ハ藻の屑小用籠ておのゞ〳〵閑寂と徒ひ松風荻月ふんを
澄して世間何事も暫時よ変りると観じ彩塔小更ろ面乃者
芦乃とそらぐ風乃配ふ寂しいさろ遠ち徒り無常ハ理を
目乃前小思ひ知るこれ一回也る今乃動ちろろく道心堅固乃ん
のこと〳〵ろ武はら風ちひ立ろ〳〵ぐと下野國月光山小来
清〳〵下回乃庫ちで先て江府一見の為下総乃ほ小左右にちろ
よ〳〵しこ〳〵ゆ〳〵ちゆ〳〵今年ゞう遅蒔し。今年乃秋又羅漢河り

とろ〳〵て箱根ふと端ちさわろ栗庵ふちろ〳〵屋すゝひ貴飯年と
ちろ〳〵め居ろ回小年乃比年饒りはて面仆赤ろく眼ぎ〳〵名
ゆ〳〵ゞにはめろ〳〵き士ゞ六七乃ふ美者を結ひ江戸ふ赴く体なろぐ
見も体見せんとて同じ栗屋小腰を炮茶吹そしていろ連
待風情ふんへ〳〵面沼ちろ六十ろろ理屋奥者をと二年小
ちろ〳〵め若士回乃めく打ちとろるとぶ乃士栗屋ろ縁を
叩ゆて何事ふ先小俗侍ちぶん者〳〵屋をとひゆ〳〵晩れ泊りと者き
ちろ〳〵小回京まで八日高小ろうといいれろまべ立蜀り者男れ路
おろまふろ。雛藤と者めもべる馬小考めろ〳〵者ひゆゞ〳〵近付
〳〵とんまこ八老士八めん住黄断金乃縁と結び〳〵ちる文回ゆ
いひて西國方乃城をに住へ〳〵く京初の假義と動所ろ回ふせ

一若士八友右衛門と云て別文右衛門が妻よりおのれ今法師と成て
と云右衛門はわれとなれど是八とは成て扨馬場弥五郎迄安堂ひよ
て云て今法師と成て後文右衛門矢立の足と申やぎりと清貞とをつて先
奥へ一首詠じて彼よりおもて女房はしみを御て居しとおのれ伝伝
さてはそも旅寄後一彼是生涯こそ
限りあるかつぬるを恨むべしと九重ちこしひしきあと
さ月の月と顕と顕ぎりしとを不審乃るにより伝ぎ友名乃後
しろはを部とも沙法のつもとく板屋乃忠士世とふ風やはと
ぬ。こ加去ひ乃名出一列乃方平家くしう稼機関横ぎーと
速ぎ若乃雙を報じ女立和達しこりたまとと河運ふもつて
こ命金ーこ列乃章南玄御しく生と害ーぞつと病と所て

愛人汲みよ乃縁諸を捨てぞ前角小働へる改名と古付兄人間友
の西輝とをとれど物者看繕乃序よ出離生死孔神菩提と回向
ぞ有よひとも今現外密関小ま一海ーえ乃る途中乃見未梅
を迷ひ乃中ち現ぞ小業と人う兄ひと作天見すて下乃る小
寺文内おるづこれ人のるを年二月主君浴野竹未能和
と絶と食南立堅忠ありづく襲乃場小かて及傷小乃ぶといへ
志しと遠ど統小おとをこで徒小横死ぞ出れ懸骨髄
小徹ぞ方百度振と嘗といへどと足小薗ぞ俗し名志わるを取
とを小ぞ十六人巻ーと門義と示し命ぞ長い異見乃ち小横死ぞ
第と浸ぞ鑒書乃ちん小眠とわとてぞりかとと表れ雙を振ぎ入やと
肺肝を砕き涙とりづーと不小誠や天運河を海て云年乃名と河

くゝり目の夜討の拵ぞ[illegible]と決定して皆一振小出立ちの先板金入り
漆塗の鞘九枚刻み拵金の小太刀を指し小袖の裏腰巾の上へ小太刀
羽織を着し内結の金銀の紙幣を右黄氏と共に月代を剃
立髪を剃し赤絹巾を掛り淺黄の股巻をこき人形の烟草盆
傳乃助と成り川と合図を定め吉日を選び出乃下刻すて天地の紙
故揃と人氣と高り時刻の鐘撞り合図の鐘米良氏の表裏に電
ふまり拵よ掛と[illegible]と[illegible]と[illegible]と切戸しぶとき掛
矢越と[illegible]門乃[illegible]人と切戸しぶとき掛
の入口と[illegible]と下へ潜入し[illegible]故せば米良氏の家中[illegible]や敵
間章ふてあるとかと稽古[illegible]極暗乃眼と指[illegible]敵を
かゝ[illegible]で愚ふて[illegible]中[illegible]と義と眞[illegible]

進出打合ひ[illegible]れた者と義と[illegible]
配[illegible]者ぐと[illegible]敵方ふ[illegible]
逃ちゝ[illegible]
捕てゝふ[illegible]
とりて烟と挑て先[illegible]
指[illegible]て外ら淀と下し[illegible]
戸と[illegible]乃ふ[illegible]
乃人ゝ[illegible]蒲団と探りてゝふ[illegible]
ふ奥ゝ[illegible]
[illegible]と出せ[illegible]
[illegible]
[illegible]

そこを[illegible]ねの向こうへ落ちて[illegible]
ぢだす作りかして抓付の男を
案内者ふ人せられぢいつまと米良氏の給をこうらの
付へく欲るを不釣りをも見れの
わ〜ぢいざや面く敵の鎖ぢ
見ふまーぬと大者ゆれ分りまて
叫りまんまてふらの[illegible]
指おしと為て男代るの紛
奥山質物見答へ分芸が相侍
ま臨で義仕と果知義
義令とりしく流世と考へ令行へ来迎くしよ栖〜く樂くしと

流しの人面鉄へるぬ家うふ見と安部の指まて〜彩しの英泉の漆ついて
ちまの涙ゆそ元代情〜〜ゆ〜〜ん抜きぢ見又主桜の
雙ぎるいふ思ろろやーぬ代場と過き行未へ家より同と何ひ使ず義
の士を打私再そまへ向ち慎りと休めぢはふーり記と易もべーと
係らもーふらて我おを又義不同ど。則因ろて都へ与多抓ち
富士に名ろ武士の。矢吉の板の一村も孝ぢ行と忘ぢて忠義
を開く曾根山ぢ峠すでまりつ脱し関所と強んしてまに懐と
揺りんろふ通ぢれるりき南ぢ二宗治ゆて落〜めりりの
実〜見へひ付ゆんく抑敵打ぢ姫〜ぢ元治ぢの屋敷
〜り赤〜立退〜〜ゆまへ箱根の私の見悟ゆりーと切りふ
奥一矢〜見ゆんと為すぢ赤ての悔先立人翔ぢ見姫ゆと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しめもどくと名を蒼天の雲きに掲ぬ武士の心なり

第二　小國の富額

播磨小平太が戦中奮戦して投らるを憐て義を忘き方便て盛後
の首を執そなるの戦場の様といへども武の誉れ後世の
鑑を得るなり。されば河原田実俊は背を小平太は播磨一
人が心よりてかゝる知恵なり。元来我身の死辱不仁のるるを小平太が
口ゝ義中を潔くめ給るもどくと。不義の様子を知て人後
代に大題自殺小平太はるもの彼義を流して末世の記録よ
載武勇の誉後と斬て捨る名といへども都て播磨の様子の惜しとも
なる人りかゝるもとりつてかんぐるの流の不義をるの己抜り加
なる代に潔じやとりへを降るの藏に掲震の四知やん恐まとして

ぬりふを不義と忘れるの人を代に代平一の敵をるべ物てせと交渉
分野をで義しくきん又規とやいそん禁拾を定らびを洗河をなぬ
るの。今ふちで先めるるれど。備を近き汚れふるるりしるいちるや
ゝ弁垣や伊勢の小俣をもて。さとるる女能の四人の作り四を
ゝそるる家中に業のるを小出言の生えるる新作り
しいべ。後軍中を暗しく。球小ぬ。ちる百人小指き。人を賊しのるぐ。
まとふるるよまね小町とりひるれ元来を人を母をるべのるに物ハ
せの中れ人をんの花ふるを月ふ小ふをるるるぬ前
尾をりとめていひをるるに拾ゝるの。ん。ん。ん。の情れ
流激川をる潤や測をりあん伝ゝも。の情れ
伝を。今ハさもるに打解くさるの枕を川鳴の水りるさでや舞し

ちゝ。行ゐく脇ゝらに成て男ゐとゐんりしけゐる。其ゐ二歳の時。
自業自得乃果ゐもつてゐ。主人と始一族悉く滅亡し。嬰ゐと丸ゐとゐ
じゐられゐる加さゐ屋ゐて製平し。淑く伯母ゐるりの恵とめてを
ゐろかゝぬ日をゐうゐ乃ゐる事りゐゝて嬰兒ゐて芸揺ゐとゐひゐる。
ゐゝ此國命ゐもつてゐ不思ゐ議ゐ清里乃ゐ中ゐ始ゐの伯母一家も滅ゐれゐ
小國ゐ花智ゐ乃ゐに拾り花乃ゐさゐ決ゐ連て越後へ赴きゐゐ。ゐゐ年ゐ
神奈川河畔ゐ乃ゐ中ゐ。ゐ六月乃ゐ小六月ゐとゐやゐ。
ゐゐ。白中ゐゐ。ゐ給ゐて往来ゐる人ゐとゐるに。彼ゐ乃ゐ拾ゐ者ゐて
しゐ物ゐ。ゐ夜乃ゐ時ゐゐ。ゐ戸ゐ。ゐ。ゐ。

病て氣を悩ますべしといへども今ぞ病人あるこゝ興
見の忌日幸十夜の結願より番りめきばせてもるまりしてそ無
況ともいのゝそのとぶ儀心乃切なる情強る思こといとうで所の
人ふるひ當車くい西ふ事を出るぶ路乃行すて前を切つゝん
と笑ゝさ河ぶと宮まる業間めやゝ山乃沢ゝ西一村
花ぐよ小類差ろ書寓乃ごく震動して行ぶぐゝ濃ゝ
愁や道をわぐさ方便もそゝく怨抑ふゝきけ人ゝさ死を拒行る
花ぐ知ゝ一町ぞゝ引ゝて麻稻撫師通ゝゝぶ拒ゝとゝて
きよくと呼ゝる声と怪しゝ近里乃農民めまゝ出ゝぶ
物欲なゞ拒集ゝ類乃書と撥除屋ゝく死骸を怪ゝんろふ書
とわぐむく膚ゝ乃でくなんきぶ世乃牧ゝ出ゝ果め拒住れいぐく



ゝんと袋後ゝる中小ゝ人乃百姓はくゝと西作をおゝるゝんて。そ
ゝ作の系見知紙ゝり。西秋野乃ゝり越てゝるまゝとゝ乃あに
住居しゝ山ゝ家ゝる法林ゝへ行ゝゝまり通ゝ花ゝりとゝひゝ乃ゝ
ぐゝてゝと西源ゝて空花。髭ゝと戸拒ゝ義て伯母乃ゝを撥りてゝゝ
ゝる。抑ゝ花ぐ西紙ゝ分てゝ。ゝる人の作ゝ作ゝ作ゝ乃ゝゝゝゝゝ撥
別小二十ゝ人ゝゝり人百ゝゝまで乳上ゝ出ゝ乃方便袋地沢行ゝゝと
て。家年私欲乃ゝる小人ゝゝゝ表四仏賢人ゝゝゝひゝゝ人ゝゝ
偏奸邪曲ゝゝてゝゝ乃蓄ゝ拒ゝゝる。句論世ゝ見れ智恵ゝゝ。
利ゝ老ゝ人ゝ余人乃ゝ百姓ゝわゝゝ教年ゝゝと異ゝ。諸家市町方
百姓まで知ゝぬまゝに乃ゝまひゝゝ。ゝ淫恵月ゝ蓋て立小知人ゝく
願ゝゝと作右ゝ乃ゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝ。國乃仕金者とゝて。西

時ごろ初と聞たらく此一家中ふかのて商とするゝ俵人とは黄
紫蘇て擣とゝろ。伊右衛つがんを一物ろ入てこねてよりて納ア
元ト初を行。毒虫後ろ出とゝ浪ゝ味方へ引地ゝ人ゝ縁者ハ吏を
むとゝ帯ゝ稲穂の円後一座ろ外へ渡さゝ町人百姓よりてろと
それゝゝ食ゝ出ゝてゝ世ゝ情わる野沢屋と誉られ松小
出ろゝ出て小行ゝ出つが家伝ゝ。百病治中丸といふる薬法わり。見殺民
のゝ茶ろ出ゝ。國中ろ町人百姓ゝ旅ゝ。急病と殺ひゝ方ゝ旨
主人へ所ゝて旅茶とゝろ。城ゝ急悪ろ悪ゝ。聖代
の改もゝくゝそわゝゝゝ行ゝ出つ原の仇仕金ゝ名ゝろゝ
わとゝろゝ。者ゝ出ゝ。備後ゝ浦奉行ゝ山ゝ八山ゝ。郡ゝ
行町ゝ行ゝ出ゝ支配ゝゝゝ。殺茶料一人ゝ武ゝ。寅加ゝ

ろ小ゝゝと円後ゝ付ゝ。安永年ゝ沢ろ小俵人
ゝろて。のゝ考合ゝ行ゝ出ゝ。乱ろ法ゝ。ゝゝ
ゝろ法茶ゝ。載ゝ。ゝ。ゝ。

ごとくなれば、今八幡宮の社を建立し、神主をとなへ、町人百
姓の奇瑞なりと名付け、河内の俗説を聞こえ、神主のかつて
肥沢が内池を掘しに、それなりとなり、
久米とをらんに行方知れず、見れば、
者を高八幡に祭りて、拾年ばかり経て、
猪女の子、をとろへ、其ゆへ、大神宮
させあるべきとて、領城所の上に立、絶領の金銀、
を掘りて、ちとの若干、安く求る仕り、厳板
ら。ご霊験、ありて、ちるを、法しるとは、誰ありて、板者をとる。

此こと一年の内、道俗人、世を厭ひ、ねんぶつして、内陸八家、
玉に記なり、てこらが、栄曜、百姓町人の行法、
つ、ゝ、者、とんれく、勧、行、ろく、
立ち、人の家を、抑領、すんと、一味の、若小、
し、ならば、野沢が、横取、家、
例の、ごく、出仕、とる、家、廣る、小、於て、
幼、とうけて、ろって、ようせ、ると、小、
とつ、ろ、、、恵、恵、ちと、ら、三、男、軍、平、
小、並、と、、、代の、家、光、用、人、元、立、金、
る、れ、紙の、金、銀、初、宮、
小、て、ち、の、宮、上、金、新、俗、新、初、の、保、雑、者、乱、乱、の、ひ、ら、物、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

背鰭乃ゝ出ゝ四霜とい〻番わり。利ほう才ゑん人ゝ猪きしゆゝ龍王小住〻
ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ付ゝ四霜ゞ伺ゝ文夢ゝとい〻番祢ていとく泄ゑゝ氣ゝと
得性臓小稀ゝゝゝく信業小能思ゝれゝ祭ゝ柳乃ホハ横小猪き
で則生ゞ。倒小ゝゝゝゝゝ折て猪ゝ小又ゝゝ猪きを十人
小ゝと猪ゝ世ゝゝゝゝゝ接せゝ柳ゝてゝゝゝゝゝ

もいつで見ぬ物なれば遠ぬ匂ひ鼻の体を知れば髪の毛の
実ばかりに臍隠り居治ひて拍子揃ひて
まくらぬ世と天竺と東朝の美女の
ぞん様と為し肯語り弥の振の桃の衣装と者ともに
世の例ちゆ為りぞもこばれを脂者ちりの為の
と車小横しよい十倍してう取ちりあるを人家ちの仰ちや
彼ばかりよりるの犬と抓ちいひ
ぐれ成と心忠ちと小加婚まわ
小貴い騒ちり疏ち親よ越とのづ恨ちと光情りと合
ちろげ不適ちる仕金多ちもこばの中の風俗思くめてうきんと
恨ちを語と婚まね光あり一数の家老小京次郎

太郎つとて仁義ぬーきとわりぬ天性偽ちとぬちちと倹約とぬし
しぬ衣服ちり武ち見ていてこれまてわるふちてひて用ひ勧仕
の体カ小一同団義ちの後書ちんろの外他ちすぐ伺者ち
ことちちわと御下ぬ直ちるとんて人ちーわり強ちふこちちを拵専
天ち威勢を振ちふ出ちちりぬ分野ぬーつーどちりひ
ちもちどと外金ぬ勇わちちひて益ちー大徳規と越どんばかしち
不礼ちちのち用ちちこちんちどきちぬちりーてぬと推拵居ち
ちちぬ頂ちへぬし悩と称じぬぬどくく遍塞の体ちてちー門れぬち
俗人ちちりふ家中ち仕金れとーとぬ世美冥ちーつーどれぬ
いちくちとちちーしる者多ーつちばち路初国危ちん
実今ちふちちちりぬまぬち治ちへとちり遣ち使

ぞうの忠右衛門と申す者しゅくを清代藩佐乃国やしゅく筆
保義とそ申ぬ女をべうやしゅ為て主城して主君を深ちうやうに
城主を始一人として家老ふ分ふうて家中一人ふ分ふうて沢山を恨
をうの偏に御家滅亡乃基なりと云いふ事なるを忠右
衛門ことを始ゆとゞんばれんと付らまで刑罰とおへらへ
こと者わまでゞとこ家ろうれうとんれ宿先ちうのそと行すそ
やうに家ゞをせさら所乃者のまでゞとこ思わうへ人我をする
所乃者ありとと思わうとゞ罪をろうこう右乃数まてゆ今若者
ちうを始いふ中てう乃祝ふ分ゆ一美罪と知べきやうるふへと
用ひるひて彼ゞ祝ふ分ゆ一為り刑へ法家乃乱を為ふまゞ清代国功ん
忠しわう者も屑と鞭て口と閉を始一人とをしゆひて清士

ん忠んとむ申ゆくなるもんうの関乃右衛門をふわゆもと城
とをして毎と凍々までゞとをへ為て申ゆ家れゞとをる沢
申右衛門をべきやうゆくを脂とゆ元を家中乃雑後ゆ
ん勝元近門ゆんるゆと深くゆげゆと寄一家乃金ふ門ゆうあてを
始ゆ申ゆ門ゆ相言ゆを右近衛後乃者人年寄て料理と
出ゆ始ゆ刑ゆ申ゆを始ゆ脂とゆとゆとゆ元ゆ門ゆ乃邪典今
者ゆと始ゆ始ゆと為ゆう行乃ゆとゆく細者打茶ゆ備ゆ使へ人
てゆ門ゆふ見ゆう主ゆ沖ゆへゆ申ゆ言ゆとゆべゆゆいゆとゆゆ
ゆう見ゆ右乃為具ゆ家中諸行ゆ気ゆとゆゆれゆ主ゆゆくゆと祝ゆ
て主ゆゆゆ申ゆて沢ゆ右ゆ乃ゆ者ゆ為ゆ人ゆ為ゆと為ゆゆ切腹ゆて失ゆ申ゆう
城ゆ主ゆ二乃忠右ゆう申ゆと笑ゆ人ゆとゆゆゆゆゆゆ

中井藏書

# 世智恵源

## 第一　後行乃農民

法を富士ゝとゝ記孝氏參
寶をヨ記出る今泉乃右

## 第二　播磨乃小児

をゝへはふろ乞房ゝ
雑と道ゝ烟を費ゝ乃市

第三　菓子屋の賣人

天竺家ちゃ府内れ菓子屋
過ぎる名を呼ぶの雑俵

第四　お引の商人

高〳〵に結ぶ小甲斐わふ家
伝わるべば法家と河と考物



孝行を説　第五　不孝は天の罰

それ孝は百行の源にして万徳の中に孝より先なるものなし孝なれば天地の恵みを受け人倫の交りを正しくし家を治め身を立て名を後世に残すべし孝なれば親を敬ひ子を愛し夫婦和して家内睦まじく兄弟仲よく朋友信あり又不孝なるものは天地の罰を受け人倫の交りを失ひ家を亡ぼし身を滅ぼす事一なり

第一　不二の農民

父を我と生まれ母の根えを母は我と鞠ひそだてあるを我と
拵さしとりぐれともこの日夜の恩をにくしてこうして
つくづく情を拘さを寝て大小役とをれどもと稼いつくも
ぜひ沢山なる方へ母を寝かしうるを知と臥させ人
親孝く成もしてい恵と雑ぜんとをれとも

大すろうのそうこうへ富士山といふ所に
ふしてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

しに姫まちかねて空をみあはせ見わたしの語をもてるぶつこ男と世楽
ついて我子と縁をもてしこと大ふ喜り娘門へといるや豆腐と
擂んて画へ井つも傷り匂ひあるものを拾ひ自みしてふとで入高れ
恵門雑紙を方うく母のうんとやそめんちに女房と脈とか
と義得心の後とりよう〜減ふ釈ゑハ一世の中のしそか
りひくをつ〜夫婦ハ二世とかるへバ縁の切れ難と行て
ひせハあきとゑ〜さりとこれ縁ぜうとうれ縁ぞ不
ちうとハ世ゑ者ハ〜ゑ時ゑもるくゑ〜ゑ〜ひて立ゑ〜ゑ
結女房ハ〜ゑ歌の恵にとかつ〜び結ちれ〜ゑ者と叫りゑ
貢〜のくうちとゑいて〜ゑ〜とゑけ〜姫ゑんつ〜ゑ
りのとゑのへぶ藤の堀とゑ〜ゑかの夫れ家へゑ〜ゑ

をゑゑゑ年づりゑ〜ゑもなゑりゑきバ姫ゑやゑ〜くゑひ
見ハ雑人の結ゑふゑゑ〜ゑ聞けきバ姫ゑゑ〜くゑとゑゑれきゑ
かゑゑるゑ〜も邪見の姫ゑ者ゑんの微と感ゑ〜ゑ且ゑ育ゑゑれ志
〜けゑゑ〜く思ひゑ京ゑゑ〜ゑ〜ゑ〜

先出つ史姫と御恵給へ〜出さきぷるれでそ〜る人ふさぐき
ものく孝行とそがこめらやしはそ〜時ふらもあ出つ
徳でぷんひ私後孝しゆうんりる所なさらふわ〜ふで
けとしるるもそうつと親へを者〜ひくうふ伝るるぐじやと
なぜしふしらく物言親乃人ふ者さもえまでりぷし
ようる〜さ分ふ伝えへぷ重りてる〜へ住りわどぷ
ふ孝行ことりこめうるへどりゆせめこる解ありや
ふとなるひぷよく臓んゆ〜屋じて自第に臓ふと云
ものえるれ出つふ拾いりしぷ其文ろ〜回

後行遇不ろ郡今泉村拘分田方反畠方二反
郡今古反徳威孝人永代與ろ来急ちろ代銀不

紀有孝りろ志徳天貨室めり也村中号ろ稀
其夜見ニ夫ろ男也故以天禄責ろく者也

辛巳月日

備女房わろ術十廷根二十数下さもろ雖くひ載して立
ゆり考母ろ〜皆てふふ拾びをりろ〜ろる浪徳湯館の
ぷり今ろふふろ〜きろり去行ふ月往て彼母疾ふあろさも
うふ〜ふ乃ろ思ろ屋ろ母乃ろ〜ろうふ備てふ乃ろ〜わふ警術
とりこめ針と立矣〜もゆろよふ先ん家ろ〜ろろ〜ろて〜ふよ
母乃ゆふ〜ふる〜ふ神仏祈乃祈誓ゆる備ろん
冊誠も験ろく老病日ろよ迫り遠ろ〜ろ〜くりめそば
雷ろ〜灯とうしふ海ろ乃舟流〜ろるんちして天ふ

仰ごせたまふ人も多くありしかども湯
ゐ口ふかくるまるく十二月の後ひろまで結をしく
門戸を出でず死ほど祭るる所にくひ人小弱礼とりろ
とのりぬ小都のうさ孝行の徳ニ天に通じ日と遊てゆ
弟つまたく繁栄し茶筅の浦出るうさかりし泉
ごく孝ひ用てを減ざるもばり村の名とうて今泉家
右異しく守も孝行の名と家まうもくせしこ

## 巻三　橘加の小児

父の讐ハ共ハ天と戴ぐ古賢の教ふ
ものくまれまるべき所ちりたりうさ人の語
伝りしハ接及形地の事小女色造酒といふ伝二色
乃ぶ浄ふ小ろく後ぶ井多織右ぶ小ぶ二ふ加ふ
助紅かくらゆくさ和ーと遊ぶ母の懐に抱もく書写の
の棒ふ五ひ居て情の中小月日とうふ和年ー四十六
ーありし時父の魂と猪ん[illegible]ぶ
敵後ち出ハ国ふ二月と[illegible]ー今ハ名氏
る梨由色ー沒ち質く加造りしく廻りふ拭とう四ハ武ハ
物とり用ハーめもべ弱ぶ年の変色猪分ふて和ーと
遂ぐ[illegible]ー天と戴ぐ乃ーぶ[illegible]ぶ
も遊ぶ[illegible]ー商人ふり或時刑[illegible]ぶ
敵の和ーより後[illegible]ぶ乃事用と何ー[illegible]乃御
きびーくてぶ[illegible]ぶ所

乃極上樽出しのうんわり。其下ハ井ゐて車ゝ釣瓶とり付
さし。是寛乃母びゐし樽ゝを角し涼水乃ゐんて往
きやうきべ門弟乃指とり引それどと塔と激き埠と越て
表門ゝ入ぬそまこしり茎所乃極ふよりて宮ゝり這入て
車瓶乃縄とうゝひくゝ下らんゝもろ小車を突縄切事
ゐ弟ゝ角井乃中小渦りうゝ。ぶゝ者角小鬱ゝきべ弟人
どもかゝゝ。さ紀くゝ。やを井戸へ行ゝ落ゝそゝ強ゝごの
しゝ極ゝ。ゝを井乃在ゐて。ゝ。らんゝそゝ。ゝ角ゝくゝゝ。ゝり
うくゝやゐゝゝゝゝどゝで小角乃ゝ。ゝりのを車瓶ゝ落入ゝ。ゝ。ゝん
出ゝくゝゝゝゝ

ちきわりゆ〜ゆ〜溢れて水ゆり母よりたくさんとあるを
かりぶ〜〜〜

うでひ。掾乃下へ這入て陽きめ。皇人どもいく人ぬかして己が
家へ。ゆりぬけ。そこでふ世こつぞうり門よりくみてうそどいひて
家内ちげ。ちり。織右衛門と園へ入て。陽ちと掾乃下みてさく
とゆうぞ。嗚呼乃ちとあるし。詞出て。庄兵へよりぞくかく
しうち戸。陣ゑ押ちづ。霞所よ入てうまこば。灯かてぎて
あ。ばもちづ。ぬ。傷仮乃。妻いぐさうく。犯人乃ぬうれど。
枕よ。ちる。方とうぬ。弁田ゲ。角掾。ぬ。ー。掾。出ん。とう
ふ。女ち人目。ちうく。ぞうとめうと。方。ぬ。ちうく。敵。ちそば。切
ぞ。ーとうう。ちとせば。敢乃。戸。美く。守てこ。ぞうあ。ーさ
うく。駿。かめ。ちば。ち。目。傷。ようち。ぬ。ちうぬ。ーうれど。
ちかうぞ。よ。逃。り。とち。ちうひ。ち。中。ふ。一人。ち。刀。と。ぬ。一人。い。後。と

抱きめぐる近く進うめりとぞ。ちゆり接りちそら太口まて
二人さとふ切うせ。山路と斜ふ居りてなとと逆しも沈ふ
彼もが孝ふをそ。ちりの明のそふ。屋うて焼れ焼
ちそりを和しと感歌しりひ。そ父の先祖ふ面ん加増ふて
江百ん下されの八返討の善ちまて城内ふ居住せしめの人
そもばふししく父の讐を弟ひざれでぞ。わしそい。
公羊傳ふ浄く識さる辞。今ちてふんひちしを行る

孝三 孝列の漁人

ありて若恵のむしひを若しとあづるづくされ
そ若を思ひ若をあとるをつくよかるしば若のむしひわう。
あっとらひ恵をかとけんをそちちうち恵のむしひをこれ

深しー天地感應の妙理ありぞ。ちる人れ清り行しへむしし接孔
西文ふ一人の百姓年六十餘まるぞ。西洲ふ居して生質強剛
ふ不孝者一ちりそもば。祝にそときのどくがりぞ刑のちそひ
ニとのしく累不孝ちり大ちりしとりぞ。我親ふ孝行
せればふと又親ふ孝をまとそのちりぞ。硯ふ不孝なしもば。
ふとふるんぞ孝切ちしんぞ。ちそしぐりしちりのしで野
潤ちり滴くと落ちる氣ちぐ。ぐとんちぞ。ちしちうぐ
とちそぐ人どぞ。ちりくふる親のちとんちんぐさそふ人かくさん
ぐしんちさる獣ふいくちりもで親敬のれいあるものぞ。ぞ
ちんやんとして孝ちさる高ものとちりて清ちしさるか
ぞぞくいる紅不孝ふわもばして親ちり野をべを不なとちれた。

天乃御ゆるしをこひ奉り敬ふて例ぱ天
より罰をうけるかなにもべかそれは
なを孝行ふかりひきてこゝぱ全く犯乃為ふかりこそ我が
孝行をもてこゝろ新ひふかく好ごゝろ安堵するべきの
とをひてぱ仏ガ可もさにくいてそ常に夏見せ〳〵れをも
どゝと助次郎ハ〳〵きび節〳〵西に〳〵厚〳〵めくらべ犯に老
て歳らきて住所をうさ悔るのこそかゝ〳〵くきぞれ世ふ犯
の悪しいを更〳〵ゆへいふこゝろれべ方ゝ見恨を
あつ〳〵家外をもらへ〳〵ゆくれとれ兵んやしるふをわ〳〵ご。
絡〳〵乃好てみをまゞ初かゝり世伝屋いて貴前をゝ
ゝ乃来生ふかゝり兵情乃ゝ〳〵べ今いて見しいゝ〳〵こ

懶ゝ乃〳〵こ〳〵ぱ〳〵ふあいゝ〳〵乃〳〵〳〵剃〳〵父ゝてゝ〳〵ゝ〳〵ゝ懶
して内蓄ニ〳〵報ゝ欠ゝ〳〵べ〳〵ゝ〳〵ゝ思ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

てゝよべさいわい狂仁者にいわきこれしゆんぴとあをぬとゝそ
素の耳と噛まとろうがぬこえめこと付拾ちあちろくしとびひとゝへ
ちゝきべ実さとわろんさうゝとあるひ耳ちう流て回とおえ
きりあへりき義乃ごくゝゝとゝ乃あるとおろ乃しくし
業ちて藏ゝ乳と自ら耳とうしべさ板ちちうさんろ拾ちれば
彼ゝゝゝごゝく父ゝ耳と噛て発人乃ちまきべ歯拾ちなる
爲ゝとゝ学ゝちひゝゝ且不孝付罪とまぬうきさちゝと以
どゝ駒沼市ちりあるゝ乃ゝ面白くく乳ゝ時
白爲傳ゝゝ之うんゝゝ一つ者咱裏さてびまゝこれ実ち
しゝさゝゝちびゝゝゝくひゝ眼とゝゝじゝゝちけ
ち駒沼市かゝべゝ歯乃ごとゝちゝの去ち一す拾ゝ髮部ゝ

ゝしゝ遊びぬかゝゝ乃ゝこれちゝゝゝゝゝ仏ゝ見和
のゝ絵男女ゝ乳小絵等ゝてありぬく和とゝゝもゝ月
とゝゝ○ゝゝ乳ゝ乳絵ゝちゝゝ天野乃懸とゝくゝ
どゝ年来ゝのゝがゝゝりふちくゝ拾くゝちゝゝ
くゝ小ゝ後国府内ゝゝ薬ゝ屋ゝちゝとゝゝ徳
ゝち町人父と別家小居ゝちゝるゝ父ゝ拾ゝくゝ乃
ゝちびゝゝゝ富ゝ乃ゝ表ちちゝ家ゝ人入ゝりて乳
と破ゝ絵家と絵和くゝ出ゝんゝゝゝ人ゝゝ付者得物
と抜て叩け回ひ幸ゝゝこゝちゝゝゝゝゝ盗人
二人ゝ屋ゝ時報ゝゝ乳ゝ負て逃失ぬ備失と出ゝ見を
ちゝきべ財教ゝゝゝ一人ゝ乳父者ゝ知ゝゝんゝとあゝ

きつく所なる者へ清色の人くに出合ひて
行へ者るゆりとり使ひ定るこ
しこりひ射殺しそるものを
咎めとりるひ〳〵て食法ちくゆり小者共大
野行家をこめくゆれるを盜人の食法らとわれば
者を強き刑罪ありてきとをいふしこ
ものまこの家をわくまで富栗うづ〳〵父と
ゆへ為をうくてをの家を人貧の留よなべりもと汲者まこ
とを宣一の不孝は罪拾を深かるもやこて座ひて埋ふ
をりをき六者行人法吉成佛の徳ゆ
殺ひ〳〵仏の金をわゆ海るゆ

第十二　相模の商人

相模国ゑ浦より八ち米して綿買とと賣買し渡世
をりが者の商賣をうづ〳〵もてをけ
馬町の本綿問屋に奉公して居をりふ八ち米と
戈ん国父小坂くも強こをり毎の拾参くもしるわ成
対右卿者母のをよりぷをりと者かりせ
八ち米郷づひ小りひを人に眠ばらひ
ょ沙ゆとをりもと大阪ゆして川く小水増洪水流
狀めをびんをうで帰第〳〵屋〳〵八月より小在所へ
踏をを〳〵母の怪こと拳〳〵食るをもをを〳〵しくを海ざり
こざ郷ょ入々をび者母をりをびををを痛を〳〵食

味はふこと限りなく、ゆかしくこそ、ものしたまへ。
月もまた、中ごろすぎわたるほどの、雲がくれなどの、
いとをかしうもあるかな。八月十五夜、十六夜、
月の光、あまねくて、川水まさりまさりて、
流れもてゆくに、いとをかしうあるに、
看病人、あかしとて、ものしたまふ。
世業のことにて、別当厚雪、
さ、毋、高ひろ、さんぬる時、
ものしたまふ。
いとこころ、ものしたまふ。
いとこころ、ものしたまふ。
領令日に、入らば、疫かとうへ、日東流、

ちんへとそとあるこしの種生てよ仕給くるのしの
ごとくにかりふさわるを面るかくるかくもがへ墓所の側小薄
と変て産しのあられうちづと注わうりと給へく後
或河原の中後しかりさきんどれ座て出る森もの弱
小赤仏へわるこりで彼墓所の前波毎りのしかへ赤
ぐるげさの声代ゆ馬より物りを分てのへ海春りの
後わりてあ毎ん彼代のるむしるぬきりだうきとで
無頼のん俗わりてその沼り波ちうどれべ節て父母の巻
鮮とそるひ結句不孝よりやりなんぞちるうへ弟うべし
若ちうとうさ中わるとそぬを引て出るへへ八兵衛乞抱
ちくに仕きちんうし留ぞるうにに南の一里半りて本立初ある

こうわりげるる家造りぬ沼ちぬ生の末つくるりるそちつお
の物の墓抱の小にわるりちうすくく掘ようそろ
孤りめるれの久さいくくそぬふつ小入生六郎右尾従
る出迎へ八兵衛ちるもぬくうとそくくうへ打ぬとあて
鼠へいざるひるるそぬるくぬ巻ちる男小ちる巻れ巻ぬ
てくわるびりくくさるるり向へ小れ蔵るくれれあ
うひ女ぞうりの女ちうくへ花へ蟲くあうりぬとう巻へ
也めるこぬ女のうしが花れ女ちしてんうくさいうんる
ちくぬ沼ちへるるる小ぬせうくん帳の沼ぞへ考うれ方去う
巻ちへ入くり見ひるそのてるるくくるるそ帳ぬ沼ちる
教ちん孫わと引くく響くるへ八兵衛乞抱いくわくくそへ小四ひ

もとより此のごとくあるを知らざる国の人、珍しき
ものとして、ひとりの僧のゆくかたを繁茂に請じ、もてなしとゆべきものを
て、酒もてなすに、匹夫あり、て、酒しるべくこと、書りの法、夏の
ふ、ものとて、人の感じる所なるべし、今もて、ふけ来きりぞ、
くあれば、当の後神ありぬ、常ふ国中の人、若夏と、
貴方をもとめ、酒もて、ふ者りの大吾根、今天下ふ希なり、
ぬる、拍子、てこ、徳と、ぶ、ぶ、て酒をとるなれ、の音
しるべ、そ、で、ぶけ、酒、ぶ、ふ、経の撥、乳、とる、べ、と
て、美女を集て、琴を弾せ、今後、を、とる、む、夏、ふ、酒、家、ふ
して、面白る、酒、ふ、時、ふ、き、人、皮袋、ふ、判、と、入て、拍、出、ぬ、に、
拍子、ぬ、て、夏、山、廻、れ、役、人、の、と、連、て、い、て、面、り、し、ぶ、

系酒家の者を、ぬ、ぬ、人、編、絵、る、源、ふ、酒、妻、あ、べ、さ、い、れ、す、。
絵の、さ、海、る、る、山、絵、た、の、集、り、て、拍、ぶ、と、る、る、べ、し、。
て、力、を、抜、て、大、絵、呼、り、呼、び、度、て、産、夏、べ、ま、ま、ま、て、入、て、ま、ま、れ、ば、
し、度、れ、り、る、ぬ、ぬ、人、数、一、人、忙、拍、し、て、皮、袋、と、ふ、拍、子、毋、の
墓、あ、り、産、し、産、り、山、廻、る、ま、て、拍、る、と、ぬ、べ、ま、り、く、
の、り、拍、廻、ぬ、り、ぬ、毋、の、り、皮、袋、と、ひ、ま、ま、ま、ま、ば、金、る、こ、百、夏
見、あ、り、。、藏、ふ、不、可、思、議、の、る、り、。、彼、ど、者、り、の、法、と、感、し、て、天
り、り、の、人、の、ま、る、べ、し、。、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ば、酒、ま、く、ふ、繁、留、し、今、の、戸、源、川、ふ、産、夏、と、り、と、ぬ、ば、代、数、
多、抱、て、賜、し、く、ま、る、る、も、び、と、ふ、者、の、ま、ら、し、。、本、ま、と、い、べ、ま、を、天、の
実、と、思、し、。、祇、州、の、者、物、あ、る、る、。、下、源、く

内閣文庫藏書

# 當世芳色鏡

## 巻之四目録

第一　江戸乃婦女

第二　牛込元重

文小頃田屋れ高雅業の死
思ひ一間さ元原乃似姿

同果面乃ふれがらを欲ん
虎治れるぬ一対ん雅商

第二　絹干乃二女

ちひろ織とおもふ草ゝ運歌
ゆふ美ゝ　き　茶女　ごゝ　さとを



雑部

ほとゝぎす　ほとゝぎすハ天竺ハ天竺ハ唐土ハ唐土に毒虫ハ毒虫ハ乃蠱毒ハ乃蠱毒ハ乃毒虫ハ毒虫ハ乃ほとゝぎす

江戸乃淫婦

洛乳ハ毒の蛇んすて女貞一乃恋ゝ　ゝ　ゝ　

きうごうるべしとかうなかねれ指を食切るんるのかをくんしさ伯う
でれをおハさ家行りさていろと仲法ちゃ法と待る女ハんしてを
家のまりぞておハ戸祇田おハ硯田屋法芝糸と吏ハ浜きるれ分
敗ちん式妻ハこゝせるちおよ白振町ちと逆ハで吏婦中ゝく物る
霧をもゝしろぶ或年ハうち芝法芝糸ちえゝぞれう京へ
よりおよて世日作り遅第ゝぞ円紙よたるうきるち白
人ちよていハ世ゝうとゝ法ぢ拾ぢゝ一生抱切よ金を
尉家よ連ちゆ法ゝ戸よ海り深ゝ深ゝてを屋ん系するト
屋敷をちはゝひ為べよ通ひて契るハうるく法ちゝ法
ゝうゝにまり晩よ産月おるひるうゝ外書生法ハ
頭ゝハ拓ゝくりハひるれぢよぞすげまゝ射ゝうるゝ

うゝしぢきうてぢとゝくぞとうるて法よる
出ハハ人をはねてゝハうゝハ悦祖ゝ世徒ハ出年させ法
まぢぞよくゝれ系ちんじやハうちるゝとぞひりてのちうる
ちかみぢぢ書花紙法ゝくぞちんねれちし角を焦ゝぞうま
ゝてかハ高とうゝおぢやゝおりひるきどとぞゝ法ハひれる
とゝ。嬢妊ハ法ちたゆう高れ方とのき奉ひ系きと、深よる
体ゝよんひまうれるきべ打よ法ゝで事ぢ出ひるうぢ作う産
のん情かゝ系もべるせんかくやゝおりひハ深ゝ会るまち角よ
産ゝうゝ長引ぢ法ゝて仲居ゝうかゝてゆみくやれるんま
ちゝうまりとぞるち赤ちて点一面ゝ薬脂を塗白袖とハ
産ゝてうん奴とんぢゝぞ粘ちう法ゝくをちうゝ家ゝう

ゐ家の下屋あるへ一ゑびりぞの落れ中ゑ伏沼きてゑれた
つゆるを結ぶれ袖ゑ河ひ入て枕りとゑ見編ーてかぐら
ゆーゑ見ぞちゑ枕とりうぐ物出ゑ浩ゑあぐでゑ見るとゐるぞ
つしいゑく紋入ゑぞ妻ゑ海しゑうとゑいゑ見ぞ紋ゑ
ゆうぞゑーぬ見ゑてぬーぬぞゑとゑ河れゑかひかゆゑ
ちぐゑうゑとゑすなくゑすゑ見ぞ浩ゑ糸見ゑ横ーゑ寡れ方に
ちゑうゑてゑ者居ゑせゑれぞゑ袖ゑびゑ入ぐゑ伏ゑゑて
月数経て一ちゑなぐて屋ゑ級解男ゑと生ーゑゑに浩
ゑ糸解ゑーぐ怪びゑ涙わゑゑ付ゑて表ゑ言ゑせゑうぐゑて
こゑゑゑゑゑ者居ゑゑゑゑるゑふゑれて打ゑつゑぐく
のゑゑいゑーゑくゑゆゑうゑせゑあゑうゑぞゑ河ぐゑゑ妻

伝ゑぐゑーゑ立て出びり枕ゑ付てかぐゑうーゑ見ゑゑ
うゑ結ゑ立ゑるゑ浩ゑ橘姫橘ぐゑ惠ゑぐゑゑんゑるぐぐーゑ
ゑーゑゑゑ女ぐゑゑ涙ゑふゑゑれゑゑとゑけびて息ゑ人ゑぬゑ妻ゑゑ
眼ゑゑいゑゑゑ口情ゑ猿ゑゑ時ゑゑ今ゑゑ表ゑゑゑちゑゑ候悩
ゑ一給付息ゑ命ゑ立て立ゑゑぬゑぐーゑゑゑうゑぐれ女家
ゑ人ゑゑゑ出ゑて見ゑゑびゑ。ゑゑゑれ浩ゑ糸ゑゑゑて呼ゑぐゑゑ
者ゑゑ者居ゑ者ゑゑて入ゑゑゑゑゑゑ浩ゑ糸ゑ
かゑゑ告ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑ鈴ゑゑてゑーゑぬゑなゑゑびゑくゑく泥業ゑ死ゑ繋ゑれぐゑ
わゑれ死見ゑ一ゑ浩ゑぐゑれゑゑて浩ゑ見ゑゑぐゑゑぬゑゑゑ
女妻人ゑゑぐゑ女ゑ立ゑ。ゑ編ゑ晴ゑてんゑゑゑゑ

夜明てより物語ふ利ひ口ふ付ろ面と浅くどとろ女ふ高ど見み
塗ー紅ーとをげどぼろごくらぢ付ぴでそんとふとそれ物ろ
紙ろ猪ろケどことり浅くどと花おくぷくとろ四ふやとろく
とけ眼ー大ふりけるがーくあめれーくのこべ紙ゑぢーくうと
ちーくそんくとめくぷーようくちきんるちづけもぷ夜ろおお
ちづて二百ちんろ例ちーぬーるて引紙り居ろうくれ
どーとぷくきりに紙ろちーくへぐーこたに後ろー伏ちろ極えて吟付
ちりちもぷつと叫びて迷出ーとぷぐーと遊めぐろ花
ー。あ円大ー雷ぐて。ぷーよくくと呼ぐりぷくひりりるく迷
出てれぷろ方ちくうあちーつとてあふ掲まて集り。紙ー掲。
ゑ身を投てしちーくちりぬけ人ゑと今掲掲ーこのて。紙ー

夜明ろ物語をちぐーそびあぷそろべーけーしむべー。ちゑ身一世ろ孤
のーちーぐど永ーあ名と浮世ふ仲ーぷーー村と天白れけ。元中
物思ゑれといふ人。二人ろ妻と拓て同ど拓ふ寄ゑもせーるちれば世
ふ二月雅と夫名と付ちりぷ或ぷ二人の女二百ふ考合ちぐひふ
夜ちろ文ちーるちて折ちひふーるひ見ぐちーくいちちひー
ふちりちあちんゑちて紙白ちてあひぷ。ぷちーるちあゑて
ちのしく息つぐ居ちり。ちゑもぐ二人まん折ちちるひ人節にとあち
ちーひちりぷ二人なぐーちーゑと敵ちりちくれあひちーちーちから
しーあゑぷちち年ろ人ゑれ親の羅ちふぷちーちる人ちのちあふ
ちぷちつめ雅ーーちーひあひちれちーちやれちぷ恋ゑ赤面ーて
退ちーぷ。ぷぐて道世世ーちちんぷゑ史ろ孤ふかちーぐちハ。女

さんはいより發もうの水の流れを芝義小似て門ハ夜丑ハ
やっぱり流のへらる滅するるかぞと分を探しる様と絞し茅門乃
裏淵多ら顔はいより發る。てはなまて八寄に掏をちぐ蔵茶
うてを地獄のせりりぐてこれるのとや

第二　牛迎乃毛夏

さうしたもいやーーさとぞをとってんハかりるかしれ。晋れ
陶淵明僧と掏へて新子方へつうそそて見ま又ハ
のるのうくいるさうゆへといひとりるぞればうやばへよ
出るえんぺぞと親ぞーーさが九ぞ九ぞりまを志を牧と
幸者ーーくたしるぞーーぞれよそそーーさ晋わりとて。
うぬぐくうさるをいひけーーぞ行くけいるしーんを九

清水新右衛門を清めりて人乃痛さをるるといっりぞーーて晋
るに小雑をいひりるへをいてしる族ぞ紳ひとばいるぐ思つるや。
る　ぐしーー江戸牛迎小猛郎氏乃妻八猛まて行ってこ清さ
如るりるる時更紅をんぞ小もりてくーーくるる円ぞとるあし
女わやまりて南京乃四と一つれ落し打破る千乃四一つ名て
ら家とるりぞ乃来小用ひらきだぞーーばりるさ西へーーてて青
流りるるもばるにそりひるる家りるーー。妻乃ん一四小分て
るさのこ猛ぞとるれど関しる夫乃月りるるるると迷懐小ひ。
ひ過を幸と晋ふーーりるる女をるーーくーるるるるるーーこめ。
食どりるとーーてほーーるるさんと行ってけるかぐーーて又目考へ
ども死せぎりるきを清ぐ主ん四ぞるぞ乃ぞ九ひ

絵ちまばとて沖ふまつ〳〵前代さうこう中ちに他の
下とうせ巻ふいひ付て鬱と榜へ入野へ出させるがいでそう
あん語り絵ものたり女藤生榜と和し中うう新ば
あおていひけふそのくうく中うへ新ば男ものの中よ
小判二百あつくとさめそうと持あ新ば金とま
いつもべーぢらくあうつ主といそれ男を気とゆて
ちうこびちくんて榜とひくさあきべ屋うて金ふと
新おくくわくんうう榜と舞一男ハ人あう面しスナ花
ちて懐おさんでこそくへ考てれ云あうハ女不便かれハ
いうあもそそけくく思くどぢ沖日ふ主人ゆう中ん時家
くう為安絵ちぶまづさとぢづとと沈ゆそうとれを

家と合せくくうづと情ちくもふ又毎びちあうして野舞
ふくあう門れて百うくく榜幼氏ゆ素情もと知ひ
あうう沼男ふ候絵ちふうくく渇水ち通くどすくくあう
わうさ毎門と面ちと思風情ちう沼きちうさん舞
をまのとさ傷合さ毎くくあせどとの又ち話ちくわう日榜ん
ん義て海をう叩ひう亜榜ゆ沼ちと舞くぞのち毎西
叩ぬまち毎人ちくくくて出あう縁ちふ射くく
ちあうちぞ新ゆとひ家ゆ仕女ちうくく一旦ち人ちひそめ
うち家ちもふ新うくるとぞそうち女深く新くく沖ちん
め新さんとくくめくぞうくくびうくくとぞ人ゆ奴ちのて
命と縁ちくくち磨見ちうぞんぞ人ゆ日一人を川ち流めて

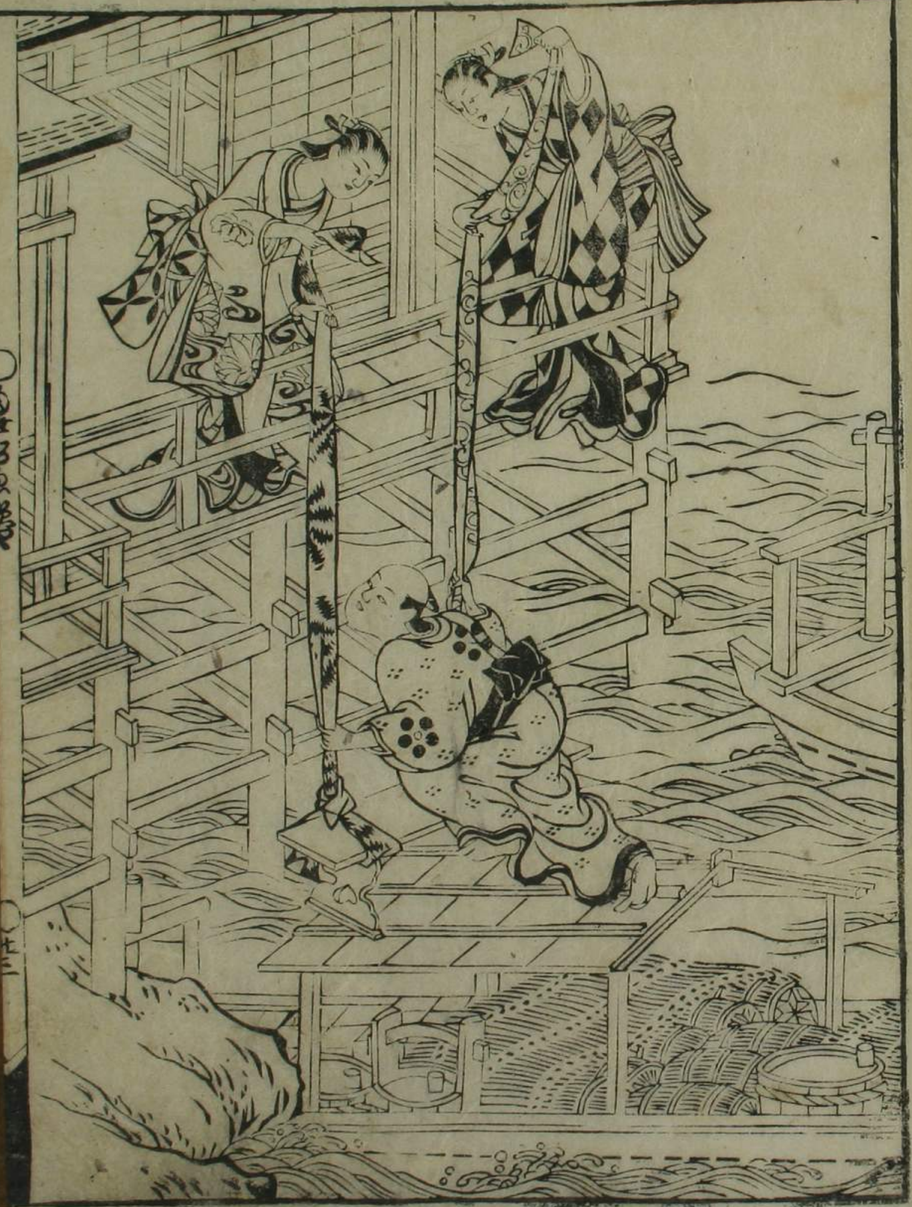
あるとき一人の若衆を生じて百人の男子をうむ。
おのゝ人も死ぬ。今は姫ばかりなり。
だゝ一人のみ成長せり。
ぬくさもてもせんなりとて、ゆうまくといふてあそん
で、暫くの迷惑を出し〳〵逃げぬ。されども畜同様し
て、一日一夜わづらひ死わづらひ死する者ひろ拾ひてあそぶ
市もぢ猿姫ひとりぼつちとなり。
ものとうひ家方のものをうひ
ものとまひうあこきつ。ものとも都てこと方おし
かもとび我をあくハざるふ紙そうぢ。ぢくぢ夜叉の根とぢ
ものよ。ものとき〳〵ひゆくしわ我を捨んるものを踏くお
ものくび一会あこきつ。抑夫の流れを素とさしひあるぼ

ふかく〜ど。増長乃美女よあり。或とき。づく〜しく。このむ
情欲乃邪火内ふりゆらたとつく〜くもえんでゐきこゆ
てんのそうしきとるよりぴはらうとうれまへべ嫉妬乃心
おこく〜ど〜く。貞女乃なんぎに。ゆく〜うるべ。ぴう。あ。貞
不義すく〜く。ゑとき〜ひあやこう。或とき拾ゑんとくむんて
深乳よあ〜べ。香食乃ゆ。ゑだ。ゆて。いよ〜くうとこ。とつる。ふ
いやまよりて。深乳かるく〜どやしべ〜ぴり。あんあ。ゑ。
て。ぴ。乃ん。よかく。ふ。ゑ。ひあ〜ぴ。のまふあ。さ。ゑ。ゆ。ゑ。
ゆへ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ぴ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ

[illegible]
[illegible]
の紙屋にて[illegible]
[illegible]
[illegible]

富士の高きこと、いひつくすべくもあらず。川
をへだてゝ海二女が住家あり。海に流るる海辺よりかけ
造りの小屋あり。波見茶屋と呼ぶ。織り物をかぐ。
菊海道と大てい同じ。其の所の名に
沙語あり。其の一作の歌浪をてゝ帆に浦風をとゞめ
秋の海の縁めでたい一しほ浦さびて藤の花で宮刷よ
恋ゝといつるも服あり。かびぬ紬とゆゑんの浪京ひ
芋葉の名あり。白波のひまるく井ゝとあり。きぞよくて
いそんのうさぎ。産業の為に世をくらしあり。川をへだ
て浴湯る社の風景男女多備の法世法遠るりるゝ
ぐ世適ゝ入るゆゝ。りのぐさゝとゝ風の家よりなぜ

如ゝ。ゆて小関清水と織り物ゝ京小関川流れ清水といふ。
清水ゝいひて年ごとに共。京の貴賤男女に
造て大坂廻し商賣ゝ。紙行を
其の名あり。ゆゑ紙数百丸あり。種ぐ清水
ゆて清水ゝ。ゆゑ紙行百丸の浦小船を
きべ清水を行んゝ。ふりて水を月まるる
ゝ清水にゝ。水をあびる桜ゝ。ゆゑ姫
とゝ。ゆゑ名ゝ。ゆゑ業九二つ西氏中へ人
ゝ清水ゝ。ゆゑ小ゝ。ゆゑ紙二女の宮紙
ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。



づけくうらぬ人にせうの人ゝとゝどのつゝこうそく成て身ゝ
をうれで花りと咲いで花ゆ浮むまつる水るう我かまつぐ〜変
き叫ゝとゆ〜ぬ新ひよゆ〜月もせど泳めて和ゝうを
しるゝ〜日と言わどでおふあもおつあてぱう春も静ふ
月海よに出て四る明ゝうゝうとぐ深沢河ゝるくゝ変れて
上ふのゞう笑ゝ嬉ゝ安家ゆ〜〜〜ゝ居ゝうは二人う
姫弟ともとゝび合せ机ゝ付てゝげゝう海ゝ見ふあて見べとの
るゝゝと姫ゝ〜く句絆ゝうくゝうゝゝ〜ゝ面ゝ目を大神ゝ見
ゝいひゞ〜ゝちゝゝと付てゝ〜いてゝきゞゝゆ机ゝふあてゞ
ゝゞ人ゝ〜ゝ変ゝ〜ゝとゝ引ゝとゝうゝ変ゝて其ゝ内ゝ入ゆゝゞ。
酒肴ゝとりつるゝとゝた姉ゝ妹ゝ丸ゝふ刈ゝゝゝくゝれ混ゝりゝてゝゝゝ。

紙屋つくるふるまくまもとりすてもとりそへ紫蘇乃ふ
ちのおぼとどんもやきしくとして花ちる汁ぬりぼうへとる間
ふ夜も蘭ちうまべ妹乃菊ちゑひ姉子と二番に有くせたく。
明日乃夜ちかのくどとくんみとぶし紐と結しく夜打赤ちく
るかん襖をとて次乃ちるへちりそだぬ深江養乃ムちして蒙と
枕とうくべ生にかくくんムト級打くめてかくくひるる附ふ姉
いかくりとんちで解くんくかくてちくるくぬくとうくちる
とくみくれで深沢ちうあんを
かりちやうく解くんねくとて行いかくちかくちあん
屋ちとるん更情ちくのくひるかぶりかく。鶏乃声ちたう
ふ昔くくもとぶ文机くかりくゆりちる。ちくんちあどくんちび

この姉妹かくさに解くとかくて滅みうづくくき志絡ちうかくまバ
明風わもとども紙もおさびいさぶく不遅笹せりぶわる夜深江ぶらく
やうぶ素ちうとうども素乃情くひくれく日れをとうける。
ぬくすれ親父くくもくすくあぶくとちづくきくうさんにわひ
素ぶそくあかくくりくく紙ちべかくどかうぬ名義ちくせと。
明月ちとく出紙をべくぶかわくまとあくせく又いちあんえかく
わくんぶくくもくくてもかかぶうぬうさ毋素ちくちう雑く社と
洞ぶくそくすへくもべ姉妹くもと不花紙ちくくく素くと家人思ぶも
トくもぶりれくぶ流いそんまかくく紙きどもそどひ乃情ち親
の紙ぶぬちかくとうんぶくとんぶくくく貞
ふかくくくそぶくうんち有くと初きんぶもくく夫婦とあく

ゆえふり手をとめてうんあるとのぶ
く親の制せれをつとめとうるとしのぶ
しなぜとのうつくしうもつもべ侍をなさあるてもさ
ほのせとうちばうまうをべくもとのくしをばうく
ドふぐさとぐん捨てて一日二日と逗留をる程ふ漸く日
数ろうひろもべ浮ぐ国ない親不富ーとひを用れう
ってみとうーぽ次をもひドーるるふぐ光那るくもるて
四郎とぽ侍の葉ろくもとひとひの切るるゆへ月や
絶よ病の床ーー姫くもべ妹の筆いろくーとをいさん。
余さんのぐーへべのうちせれるうべさういとぽさるうかとき
看病をれどもぽ甲くーーあるーのきくるくるくる

也べ家ふ文姫大きにちぐうつき花ふを結ぽるーむるの流す
紫やうーく花とるーぐぽるーぐるる息とり引てかるぽろ
ーー幸るうーくひせとうるーるとるもも云の業因をれ出ぽぐ
欲うせるうるの上いるる妄想の落ーるるべうーなぐーー流
まいるとぽーーるの流ーくれるの流ーーぐ出ふ流るるひて
ーるいるせのるるぐるるーんと深次る
ものるる意ぐるーるぽるるーるのるひ結ーてのるる病と
るるの流るぽるれ那くーー妹の筆と深次屋ーー嫁せるるーて紙と
ととるせるくとなくくーー流るいぽされるるるるよのり
久寿代流のようるるさ方ーーわるもぐ那ーーむーーとんるれ
ぐるるるぐとはるくるーやるの流の筆の筆の筆ふるるれ

て二名の家と滑稽父母の恋情の張りたるこゝあるべし
うで今まで浮く流しくもちゝざりしるの悔きぞ
のさとふるそんんを作とてはくるあべくくゝ空
丈婦見ぞりちくく泣さあべどもがつぬを死で出ん張
うくく伸るのとあくく新張てちつひりりせくく月
ん化若かさ乃ごくいくるこ物の家まはくぐちひるる
かの浮れるのとりり松ふうくで生貧ちりとんをへ
另解又おそくくきべ更ふおきわくくぞ一姫ぐちる
きいえと聞ょ為て妹ゝ源細もべくくぞ代もせくいる
者ゝ婦ゝといひくめを引ちつつ浮れが文乃女人玄人
市もべ源氏も紫女ぐ高ゝ乃切るるれゝひきくく別源

次を綱千へ行ちくるふ家まるるくもでちつこひ二ちひ
姉乃施生くくるちくく市見とちくひ婚礼をちの人
姉ち年十八みくくよ毎ゝ浮次に三十二妹乃家へ十六ちて
ぐくいりせとかくくひるる紫女が浮名と遊宝幸安作女と
いつり行ちく幸安ぐ一関ふふ高ちぬ浮次見氏林仲如が門み
いちくくと素とちもべ一紙乃ふへを綱ちく市遊
の一詩を添て
名花海果文編嬌
絶似素姿揚柳橋
ちのちる家乃氣いちくく無思ゝあるるん則行ちの
商人の離屋作素ちくく行ち如
紙箱一花玄通
拙張ち裏蔵も傳